

地域医療連携総合センターだより

No.72

- I. 地域医療を守る放射線治療について
- II. 治療就労両立支援相談窓口について
- III. 両立支援コーディネーターとは？について



発行：2020.2 釧路労災病院地域医療連携総合センター

理念：最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

地域医療を守る放射線治療

～疼痛緩和目的の放射線治療にも対応～

放射線科部長 米坂 祥朗

当科には、常勤の放射線治療専門医、放射線治療認定看護師、放射線治療専門技師と3職種がそろっている管内唯一の施設です。その強みを活かすべく部門内カンファレンスで意見交換をして、チーム医療を推進しています。がんに対する根治的治療においては、各学会の「ガイドライン」に準拠した放射線治療を行っています。全国的な「標準治療」とされる治療の大半が当院で施行できます。札幌に行かなくても管内で「標準治療」を受けられるのは、患者さんにとってもメリットです。

当院には、腫瘍内科専門医、血液内科専門医がおり、症例に応じて、多職種で治療方針を検討する「カンサーボード」を毎月開催しており、放射線治療医も参加しています。他院からの症例も検討できますので、是非、利用をご検討ください。標準治療の施行の他に、当科が大きく力を入れているのは、がんの症状を緩和する「緩和照射」です。がんに対する症状緩和と聞くと、とかくオピオイドをはじめとした薬物療法を連想しがちです。しかし、固まりを作るがんが、何らかの症状を有する場合、放射線による「緩和照射」の適応となります。転移性骨腫瘍に対する疼痛緩和目的の放射線治療は、適応が周知されており、他院からも、多くの紹介をいただいています。しかし、皮膚転筋肉転移による疼痛や、「がん性創傷」による出血や、浸出液に対しても緩和照射の適応があることはまだまだ周知が十分ではない印象があります。標的が明らかではない、がん性胸水や、がん性腹水に対しては、放射線治療の適応がないことが残念ではあります。

2019年8月に、当院に緩和医療の専門医が着任し、緩和ケア内科を開設しました。緩和ケアチームには、放射線治療医と放射線治療認定看護師も加わっております。がん症状の緩和に苦慮されている場合、緩和ケア内科外来の利用もご検討ください。



放射線治療システム(左写真)

- ・放射線治療専門医 1名
- ・がん放射線療法看護認定看護師 1名
- ・放射線治療専門技師 3名
- ・放射線治療品質管理士 3名
- ・医学物理士 1名

安全で質の高い医療提供に努めております



治療就労両立支援相談窓口のご案内

がん、糖尿病、脳卒中等の治療を受けているけれど、治療を受けながら仕事ができるだろうか？



会社の上司や同僚に病気のことをどのように話をしたらよいのだろうか？

当院では、がん等の疾病を抱える労働者のための「治療と就労の両立」についての相談を専門に承る「両立支援コーディネーター」が常駐しておりますので、安心して復職するためのご相談ができます。

対象者：当院の受診の有無に関わらず、がん、糖尿病、脳卒中等で治療中の方やそのご家族、事業場の担当者の方

場 所：地域医療連携総合センター（1階）

時 間：13:00～17:00（月～金曜）

対応者：医療ソーシャルワーカー（**両立支援コーディネーター**）

連絡先：0154-22-7191（代表）

※土・日・祝日、12/29日～1/3日の年末年始は除きます。

両立支援コーディネーターとは？

以前は、復職する際には、主治医からの診断書を患者から会社へ提出してもらって復職するケースがほとんどでした。しかし、会社側からすると社員が働く上でどういった配慮が必要なのかなどわからず、そうしているうちに「働くことができない」と自己で判断してしまい、その結果、早期に自己都合で退職してしまうという現状が問題視されてきました。「両立支援コーディネーター」とは、患者と主治医、会社との3者間の調整的な役割を担う人のことをいいます。具体的には両立支援コーディネーターが主治医と情報を共有したうえで患者本人に代わって患者の治療状況のみならず、働く上での配慮・注意事項などを会社側に伝えてくれるので、会社側としても復職後の就業支援体制の見通しが立てやすくなります。

当院には両立支援コーディネーターの基礎研修と応用研修を受講した職員が常駐しておりますので、治療と就労でお困りの方がおりましたら、当院の地域医療連携総合センターまでご連絡願います。

理 念

最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。